




## 審査結果の要旨

報告番号	乙 第 2902 号	氏名	大塚 頼隆
審査担当者	主査	上野 高史	 (印)
	副主査	足達 寿	 (印)
	副主査	甲斐 久史	 (印)
<p>主論文題目: Comparison of haemodialysis patients and non-haemodialysis patients with respect to clinical characteristics and 3-year clinical outcomes after sirolimus-eluting stent implantation: insights from the Japan multicentre post-marketing surveillance registry          (シロリムス溶出型ステントを留置した透析患者および非透析患者の臨床的特徴と3年後の臨床的成績の比較: 日本多施設市販後調査レジストリーの結果から)</p>			

### 審査結果の要旨 (意見)

血液透析患者に対する冠動脈ステント留置術(薬洗溶出性ステント)のデータは世界的にも珍しく貴重なデータである。  
 今回の研究で非透析患者に著しく予後不良に比べて明らかとされた $Q_1P$ の1.27因子と1.2糖尿病の因子は、この研究で最大の因子として等と詳細に分析した。貴重な研究であり、博士号論文にふさわしいとお考えです。

### 論文要旨

透析患者におけるシロリムス溶出型ステント留置後の長期成績は未だ不明である。我々は、シロリムス溶出型ステント留置後の長期成績に対する透析患者の影響について研究した。日本の多施設市販後調査レジストリーのデータから、シロリムス溶出型ステントを留置した2,050症例のデータを解析した。106症例が透析患者で、1,944症例が非透析患者であったが、その両群の治療後3年での臨床成績について比較検討を行った。ステント留置3年後の心死亡率および標的血管の再血行再建術率は、透析患者で有意に高値だった。また、透析患者は有意にステント血栓症の頻度が高値であった。両群間の患者背景の相違を調整した後も、透析患者は心死亡率および標的血管の再血行再建術率が有意に高値であった。つまり、透析はシロリムス溶出型ステント留置後の心死亡および標的血管の再血行再建術の独立した危険因子であることが確認された。透析患者は非透析患者に比べて、シロリムス溶出型ステント留置後の心死亡率および標的血管の再血行再建術率が高値であり、透析は、シロリムス溶出型ステント留置後の心死亡および標的血管の再血行再建術に強く関与している。